2025 年　5　月　　探究保育　活動報告書　　キッズガーデン新中野駅前

実施クラス	実施日	
5　歳児　ばら　組	7　月　3　日（　木　）	

● 実施計画

活動テーマ
サイエンス～天気～ 雨と雪はどこから来るの？　② ③虹は何色？
活動テーマに関する　日頃の興味関心について
梅雨の時期は、雨が降ったりやんだりすると「虹が出ないかなあ」とわくわくする様子があった。その際に虹ってどこに出るのかな？いつでるのかな？など質問して考える機会を作っていた。また、5月①の雨はどこから来るのか、の実験を通して「じゃあ雪は？」と興味を持っていた様子だった。

活動スケジュール		環境設定　・　準備物
時間	内容	
9:30	わくわく探求ラボ開始。前回の復習で、どんな天気があるかを確認する。それぞれの天気が挙がったところで、今日は「虹」「雨」「雪」について実験していく。	炭酸飲料のペットボトル、白画用紙、懐中電灯、虹の塗り絵、プラコップ、アクリル接着剤、フェルトでできた木、氷　机に3～4人ずつ座り、狭すぎないようにする。
9:45	虹にはどんな色があるのか予想する。また、どんな天気の時に虹が出るのか思い出して話していく。	
9:50	水をためたペットボトルに懐中電灯を当てて光の反射で虹ができるか実験する。	
10:15	実際に見た虹は何色だったか思い出し、虹の絵に色鉛筆で塗っていく。	
10:30	雪の結晶を作る実験を始める。はじめに、接着剤には触らない事、顔を近づけすぎないことをよく注意してから行う。同時に、結晶化するまで時間がかかるのでコップに水と氷を入れて結露を観察する。また、その結露はどこから現れたのか考察する。	
10:40	出来た結晶を観察。	
10:55	結露はどこにあった水なのか？結晶はどこからできたのか？を前回分かった雨や雲の成り立ちを思い出しながら考察する。	
11:15	終了	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
それぞれの天気の成り立ちについての実験を行った。虹を作る実験に関して、本社から送られてきたLEDの懐中電灯では虹が作れず（おそらくアルミホイルを被せても光が広がりすぎて反射しない、LEDのRGB色が強すぎて水の反射に色がついてしまう）、急遽保育室にあったハロゲンの懐中電灯を使用した。するときれいに虹の色が出ていた。前日に行った試験実験では炭酸飲料のペットボトルではなかったため、それが理由かとも思ったが、そうではなかった。雪の結晶を作る実験では、室温が低すぎて結晶化しない児が多かった。環境を整えて後日また活動を行ってみたい。また、接着剤を扱うときに注意点を丁寧に伝えたが、結晶を作る	虹がなかなかできず、LEDの周りの色を「虹だ！」と勘違いしてしまっていたので、最終的には正しい虹の色を見て、何色あるか数えたり、話し合ったりすることができていた。また、雪の結晶を作る実験ではできなかった子が「悲しい」と肩を落としてしまっていたが、「こっちにあるから見ていいよ」など、子どもたち同士で見せ合ったり、感想を言う姿が見られた。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
事前実験をもっと早めに行うべきだった。また、室温の配慮を知っておけば全員が実験成功していたかもしれない。自分で調べる時間があまりなかったので、実験の配慮や注意点をプログラムに書いておいてもらえるとものすごくありがたいと感じた。	・子ども達が自分で発見し、発表や一緒に考えていく良い機会になっていると思います。 ・実験をする楽しさやその過程を楽しむことが出来、一つ良い経験になったのではないでしょうか？ ・継続していくことの重要性に子どもたち自身も遊びや体験を通して、積極的な意見交換や発言が繋がっていったことが保育の展開としてよかった。

2025 年 7 月　探究保育 活動報告書　キッズガーデン新中野駅前

実施クラス	実施日	
5 歳児 ばら 組	8 月 14,19,26 日（火水）	

● 実施計画

活動テーマ
たべもの～水～ ①水ってなに？ ②水を探してみよう ③水はどこからくるの？ ④水がないと困るのはだれ？
活動テーマに関する 日頃の興味関心について
水についての絵本を読んだり、実際に水を触ってみたりと興味を持つ姿が見られた。水について調べていく中で「どうして水には形がないんだろう」「水がなくなったら困るね」と不思議さや水の大切さを感じていた。

活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	【環境設定】 ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 【活動使用教材】 ・水 ・透明のプラスチックコップ ・さまざまな形の容器 （皿、コップ、袋など） ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー ・水の絵本、図鑑 【事前準備】 ・水を扱う活動になるため、水で濡れる点に注意し、転倒などの事故を防ぐよう環境を設定しておく。 ・探究活動で使用する用具の使用方法を設定しておく。 ・スマートフォンやデジタルカメラのバッテリー残量を確認しておく。
9:40~10:00	・絵本「しずくのぼうけん」を読む。 ・水とは何か問いかけ、子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。 ・水はどんなときに使うのか問いかける。 ・水はどんなところにあるのか問いかける。	
10:00~10:15	・2チームに分かれて園内探索をし、どんな場所に水があるか探してみる。	
10:15~10:30	・どんなところに水があったか発表をし、ホワイトボードにまとめる。	
19日 9:40~10:10	・ビニール袋やコップなど、さまざまな形の容器に水を入れて観察し、気づいたことを発表する。 ・きれいな水、汚い水とはどんな水なのか、汚い水は使えるのか考える。 ・汚い水を使うためにはどうしたらよいか、「水の図鑑」を読んで学ぶ。	
26日 9:40~10:10	・「しずくのぼうけん」を読みながら前回までの復習をする。 ・水がないとどうなってしまうのか考え、発表。 ・水がないと誰が困るのか考え、水の大切さを感じていく。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・導入では、水はどのようなものか考え、「手を洗うときに使う」「雨」「つめたい」など、日常生活からくるもの、感覚や印象から水について考える発言していた。 ・水について、色、形、においや流れ、三態と状態変化など体験を通じて探究を深めた。 ・振り返りでは、気づきや調べた内容を共有し合った。	【子どもの姿・声】 ・「水は透明だ！」 ・「水って形ない！」 ・「ここにも水があった！」 ・発見を友達や保育者に共有する姿が見られた。 【保育者との関わり】 ・子どもが見つけたことに対して、「ほんとうだね！なんでそうなるんだろう？」と問いかけを重ねることで、さらに観察や考察が深まるように意識した。 ・一人ひとりの気づきをみんなで共有できるように、「Cくんはどう思った？」「Bちゃんはどうだった？」と対話をつなげた。 ・こぼしたり、うまくできなかった場面では「ためしてみて、いいね！」と失敗も前向きに受け止め、再挑戦を促した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・園内の当たり前の風景にも目を向け、水道やトイレだけでなく、お米のバケツや受け皿など意外な場所にも興味を広げていた。 ・一つの発見から友達に声をかけたり、一緒に確かめたりする姿が多く見られ、探究が「個の気づき」から「みんなで学ぶこと」へと自然に広がっていた。 ・「なんで？」「どうしてこうなるの？」といった自発的な疑問が自然と生まれる環境を用意することで、探究心がどんどん引き出されることを実感した。 ・説明しすぎず、子どもの問いに寄り添って一緒に考える姿勢を持つことが大切だということを改めて実感した。	・外の気温により、戸外での活動ができないため、子どもたちの好きな実験という言葉にワクワクしている子ども達の姿を見ていると、すくワク探求活動を楽しみながら参加している姿が見られてよかった。 ・園内の水を探索している時、水道の水だけでなく事務所の冷蔵庫に入っているペットボトルの水を発見し、嬉しそうに他児に報告する姿が見られ、保護者の方に得意げに伝える姿が見られていた。 ・今回、水について学ぶことで水の大切さを学び、日常生活で大事に水を使用することができることを期待している。 ・人間だけでなく、他の生き物にとっても水は必要不可欠であることを知ることができ、子供たちにとってイメージのしやすい『水』だったためイメージしやすい題材であった。

2025　年　11　月　　探究保育　活動報告書　　キッズガーデン新中野駅前

実施クラス	実施日	
5　歳児　ばら　組	11　月　27　日　（　木　）	

● 実施計画

活動テーマ
アート～ふしぎな絵～
活動テーマに関する　日頃の興味関心について
日頃からお絵描きや塗り絵、製作など絵に触れる機会はあるものの、絵画やトリックアートに興味を示している子は少なかった。絵本やポスターを友達とみて嬉しそうに話し、身近な絵や模様に関心を寄せている。

活動スケジュール		環境設定　・　準備物
時間	内容	【環境設定】 ・子どもたちが集中できるように机や椅子の配置を整え、活動しやすいように配置する。 ・保育室の壁に、広く間を取りながらイラストを掲示していく。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。 【準備物】 ・絵画を印刷した物 ・トリックアートを印刷した物 ・絵画の図鑑
10:00～10:10	・活動の導入として、トリックアートとはどんな絵なのか説明し「今日は色々な絵を見てみよう」と子どもたちの関心を引き寄せていく。	
10:10～10:30	・保育室内にあるアートを友達と観察し、感じたことを言い合いながら見る。 ・角度を変えたりしながら、見え方を確認する。	
10:30～10:40	・特に気に入った絵を一つ選び、その絵について気が付いたことなどを一人ずつ発表する。 ・目の錯覚、見え方の違いについて振り返り、「もし、この絵を描いたら、どうしたらこんなふしぎな絵が描けるかな？」と問いかけ、今後のアート活動に向けての興味を高める。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
はじめは「トリックアート？」と不思議そうにしていた子どもたちでしたが、保育者から『トリックアート』について説明を受けると「すごいね！おもしろそう！」と興味が沸いた様子だった。そのあとは実際にアートを観察し、「この絵動いて見えるよ」「こっちは人にも見えるし、トロフィーみたいにも見えるね」と大興奮だった。最後には特に気に入った絵を1枚選び、気が付いたことや感じたことを順番に発表をした。	【子どもの姿・声】 ・「この絵、なんだろう？」と驚きの声を上げ、友達と意見を交換した。 ・「これが動いて見える！」や「女の人とおばあさんがみえる！」など、観察しながら積極的に発言していた。 また、「どうしてこう見えるんだろう？」と自分で考え、疑問をもつ姿が見られた。 【保育者との関わり】 ・子どもたちに問いかけをし、観察しながらどんどん意見を出せるように声掛けをしていった。 ・保育室内の壁のいたるところに印刷した絵画やトリックアートを貼りだし、子どもたち自身で探求できるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは絵画やトリックアートに強い興味を示し、驚きながらもさまざまな視点から見ていた。 ・視覚の不思議を実体験することで、単に「不思議だな」と感じるだけでなく、「なぜそう見えるのか」という探究心を引き出すことができた。　・発表する場面では、少し恥ずかしそうにしながらも自分が気に入った絵について気が付いたことを友達や保育者に伝えていた。	最初はトリックアートという聞きなれない言葉に興味関心を示すというよりかは不思議がることが多い園児が多かった。活動を進めていくうえでたくさんの不思議なことが「どうしてこうなったか知りたい」という気持ちが強くなったように感じる。

2026 年　1　月　探究保育 活動報告書　キッズガーデン新中野駅前

実施クラス	実施日	実施保育者名
5　歳児　ばら　組	1　月　13　日（　水　）	井上、渡邉

● 実施計画

活動テーマ
おかね　～おかねってなんだろう～ お金ってなあに？
活動テーマに関する　日頃の興味関心について
日頃の生活の中で、お家の方との買い物や、お小遣い、キャッシュレス決済の場面などに触れる機会があり、 「お金」という存在を意識し始めている。

活動スケジュール		環境設定　・　準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・買い物をする時に何が必要か問いかけ、意見をまとめる。 ・「お金以外のものを使って買ったことはあるか」など、幅広い意見を募る。 ・なぜ、何のために、お金があるのか考える。 ・「お金がなかったらどうなるか」など、深く問いかける。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、 一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、 多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にする。 【活動使用教材】 ・模擬商品（保育室内の玩具など） ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・手に持って交換できる模擬商品を用意しておく。玩具以外にも、イラストや写真（本物と見立てる） などの活用も可。（玩具、食べ物、服、家、車、お店屋さん、水、砂、石など）
10:10～10:30	・本物と仮定した模擬商品を一人あたり5個程度ランダムに配る。 ・自由に模擬商品を交換し、お互いに納得して交換できるか試す。 ・物々交換しやすいものや、しにくいものの交換も試す。 ・やってみて分かったこと、感じたこと、うまくいかなかった点などを発表し、意見をまとめる。	・「物々交換しやすいもの」と「物々交換しにくい もの」を用意しておく。 ※物々交換しやすい商品例： 　玩具、（手で持てる）食べ物、服 ※物々交換しにくい商品例： 　家・車（運べない）、電気（持てない）
10:30～10:40	・交換がうまくいかなかったものを、何となら交換できるか、どのようにすれば解決できるか考える。 ・物々交換の不便さを解消するために、大昔のお金の始まり（貝殻など）を伝え、お金の役割（交換の道具）について認識を深める。 ・次回は今の日本のお金について調べることを伝え、活動を終える。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・導入では、「買い物に必要なもの」について意見を出し合い、お金や電子マネー、カードなど様々な答えが上がっていた。次に「お金がなかったらどうなるか」を考えたが、なかなか意見が出なかったため「直接欲しいものをもらえばいいんじゃない？」と問いかけると、「それは盗むことになる」といった道徳的な視点も出されていた。「ではどうしてお金を払わなければならないのか」「みんなが払っているお金はどこからもらったのか」と問いかけると、「お父さんとお母さんが働いてくれたから」「スーパーの人も働いてるからお金を払うんだ」「野菜やお肉を作っている人も働いているからお金を払うんだ」と、深いところまで突き詰めて考えることができた。その後、大昔は物々交換だったことを伝え、お金のない世界を体験する活動へと繋げた。 ・展開では、ランダムに配られた模擬商品を「本物」と仮定し、物々交換の活動を行った。子どもたちは「お互いに納得して交換できるか」を考えながら、積極的に交換を試していた。交換ルールについては、現実的な価値を想像し、物によっては1個と複数個の交換が成立することに自ら気づけるよう促した。 ・まとめでは、交換がうまくいかなかった理由や、どうすれば解決できるかを考えた。特に「誰も欲しがらない物を持っている子」の存在から、物々交換の限界に気づく機会が生まれた。そこで、物々交換の不便さを解消するために、交換の道具として「お金」が生まれたこと、大昔は貝殻が使われていた例を伝え、お金の必要性や役割について理解を深めた。	【子どもの姿・声】 ・模擬商品を手にすると「本物だとしたら、どれと交換したいかな？」という問いかけに対し、真剣に考えを巡らせる様子が見られた。また、「これは一番高いものだから交換したくない」と交換を断る姿も見られた。 ・物々交換の際には、初めはものの価値については考えずに交換だけする姿や、勝手に相手のかごに手を入れて交換してしまう姿が見られたが、次第に「これはあげられないよ」と相手の持ち物を見て否定する姿が見られた。 ・活動後の振り返りでは、「欲しい物を持っている人が交換してくれないから買えなかった」など、物々交換の具体的な不便さを言葉にしていた。 ・「誰も欲しがらない物を持っている人は、どうなるの？」という問いに、「何にも買えない」や「食べるものがなくなっちゃう」といった物々交換の限界を感じる声が上がっていた。 【保育者との関わり】 ・子どもたちの「お買い物」や「お小遣い」に関する過去の経験を丁寧に聞き出し、探究の出発点とした。 ・「どうして交換したくなかったのかな？」といった問いで、子どもたちの考えや思いを深掘りし、「じゃあ、何となら交換できそう？」と問いかけるうちに、「これは1万円くらいだから、それより大きいならいいよ」「じゃあ、2万円上げるから交換しよう？」「うーん、やっぱり大事だから2万円もダメ」「5万円ならどう？」「うーん、それなら、いいかな・・・」と、物の実際の価値と自分にとっての価値を比べながら保育者と交渉する姿が見られた。他児もそのやり取りに興味を示しているようだった。 ・どんな意見でもまずは受け止め、子どもの思いや考え、気づきを承認する姿勢を大切にした。また、予想と結果が違っても「正解でないから駄目だ」と認識しないように配慮し、正解に誘導しないよう留意した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは、当初は単に「欲しい」という感情で交換を始めていたが、交換の難しさや、物の「価値」のバランス（例：車1台と食べ物複数個）を体験することで、自ら考え、試行錯誤する姿が見られた。 ・物の価値については、「にんじん1本と車1台、交換できそう？」などわかりやすい具体例を示すことで理解が深まったように感じた。 ・「誰も欲しがらない物を持っている子」への問いかけは、物々交換の限界（二重の欲求の一致の困難さ）と、お金があることの便利さ（交換の道具としての役割）に気づく機会となった。 ・次回以降の活動では、今回気づいた「不便さ」を解消する道具としての「お金」に、より興味関心を持って取り組めるよう、今回の活動での気づきを丁寧に振り返りながら繋げていく必要があると感じた。	子供達が物の価値を意識しながらやり取りをする姿が見られた。交換をするうえで価値の違いに気づき交換を拒む姿も見られ物々交換の大変さを知る機会になったことは子どもたちにとっていい経験になったと思う。